令和６年度　地区小・中学校教育課程研究会　提案資料

部会名　国　語

令和６年度県央地区小・中学校教育課程研究会研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

単元を通じて伝える力を高める授業実践

地区名　　県央地区

所属校　　座間市立相模中学校

名　前　　小黒　竜太

※児童・生徒の写真、ノート等の記述及び作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

Ⅰ　はじめに

私がスピーチの授業を行ったときのことである。当時、私は四クラスの国語を担当していた。その中で、スピーチが突出して上手い学級が一つだけあった。

そのクラスのスピーチは他と何が違ったのか。振り返ったときに、そのクラスだけ話し手が「こんにちは」と挨拶していたことに思い当たった。スピーチの冒頭に話し手が挨拶をし、聞き手がそれに返す。スピーチの中身も同じであった。すなわち、そのクラスでは話し手に対して聞き手が反応する場面や、その逆の場面が他の学級より多かったように思えたのである。

この出来事以来、私はスピーチといった「伝える」行為は話し手から聞き手へと一方向的に情報が伝達される行為ではないと考えるようになった。そうではなく、相互作用（interaction）を伴う共同作業（groupwork）だと捉えるようになったのである。

このことを、生徒の「伝える力」を高めるための授業実践に活かすことはできないだろうか。これが、今回の研究動機の一つである。

Ⅱ　研究内容

１　国語科における「伝える」ことの位置付け

本稿では、「伝える力」を「話すこと・聞くこと」の領域に絞って話を進める。

「中学校学習指導要領解説国語編（以下、指導要領解説）」を見ると、「伝える力」という文言自体は出てこない。ただし、「伝える」という単語だと、「話すこと・聞くこと」の領域で 40 か所以上出てくる。このことからは「伝える」行為が国語科で重要な概念とされていることが分かる。また、「伝わる」という単語で調べると、指導要領解説の「話すこと・聞くこと」では 20 か所以上に見られる。

ここで、「伝える」と「伝わる」が指導要領解説でそれぞれどのような文脈で現れているかを確認しておく。すると、「伝わる」は「身に付けることができるように指導する」事項そのものの文脈に現れる傾向があるのに対し、「伝える」はその事項を指導するための「言語活動」の文脈で現れることが分かる。このことから推察されるのは、国語科で「伝える」のが手段として認識されている一面である。国語科で「伝える」活動を通して、相手に「伝わる」よう工夫する力を高めようとする教育観が示唆される。

以上のことに鑑みて、本稿では、「伝える力」を「自分の考えを相手に伝わるように伝えられる力」と定義する。

２　「伝える」ことと「伝え合う」ことの同義性

自分の考えを相手に伝わるように「伝える」ためには、どのようなことが必要だろうか。学習指導要領には「伝える」ことに関して、「声の大きさや速さ」「言葉の抑揚や強弱」といった点が列挙されている。これらは、「伝える力」として重要な要素であろう。

しかしながら、これらの要素は、聞き手に「伝わる」かどうかが常に検討された上で発揮されるものでなければならないと考えられる。それが、指導要領解説の「相手に応じて」「相手の反応を踏まえながら」「場の状況に応じて」といった文言に示唆されている。つまり、「伝える」ことは常に相手を伴った行為だと捉えられていると推察される。

これらのことについて、有元（2019）は「伝える」という行為が共同作業であることを示唆している。実際、指導要領解説では〈「A 話すこと・聞くこと」の学習は，話し手と聞き手との関わりの下で成立する学習であるため，「話すこと」，「聞くこと」，「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連がある。〉と記されている。

ここで、「伝える」ことをさらに精査するために、比較対象として「伝え合う」ことについ

て指導要領解説での扱いを確認したい。このことについて、「伝え合う力」は国語科の目標で高めるべき資質・能力の一つとして示されている。なお、「伝え合う力を高める」とは、「人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めること」とある。すなわち、「伝える力」は共同作業の中で育まれると言えよう。

以上から推察されるのは、「伝える」ことと「伝え合う」ことの同義性である。「伝える」ことは常に相手を伴う。伝えられた相手（聞き手）は何らかの反応を「伝える」。そしてまた「相手の反応を踏まえながら」伝えていく。このような相互作用のある行為が「話すこと・聞くこと」における「伝える」ことの内実だと考えられる。そして、これは結果的に「伝え合う」行為になりうることだと推察される。

３　「伝える」言語活動の問題点と生徒の実態

前項で「伝える」ことと「伝え合う」ことの同義性を示した。このことを踏まえた上で授業者は「伝える」言語活動を行う必要があると考えられる。また、学習者にも折に触れてそのことが理解されるべきだと推察される。

しかしながら、管見の限り、中学校国語科で「伝える」ことを相互作用のある行為として捉えた上での実践研究は少ない。これは、「伝える」活動と「伝え合う」活動が別個のように扱われていることに原因があると考えられる。すなわち、スピーチやプレゼンテーションは「伝える」活動であり、ブレインストーミングや話し合いは「伝え合う」活動であるというような、両者が切り離され認識されている現状があるのではないだろうか。

翻って、私の勤務校の生徒の実態に触れておく。私が担当する生徒は非常に素直であり、教師の指導に対して信頼を寄せていることが見て取れる。また、小グループでの話し合いは活発であり、自分だけでなく他者の意見も尊重する姿勢がうかがえる。しかしながら、全体の場で個人の意見を表出することには多くの生徒に課題があると言える。スピーチのような大掛かりなものから、挙手発言といった日常的なことまで、聞いてもらえる環境は整っているのにも関わらず、生徒は躊躇することが多い。また、一部ではあるが、小グループの話し合いなどでも意見を言えず、他者に同調するだけに留まってしまうように見える生徒もいた。要するに、「聞くこと」に関しては高いポテンシャルを発揮しているが、「話すこと」は実力を発揮できないでいるというのが、私の見立てである。換言すれば、勤務校の生徒は「伝える」ことにおいて課題を抱えていると考えられる。

以上の問題点を踏まえ、中学校国語科で「伝える力」を高めるための授業実践の知見を得ることを目的に本実践研究を行う。

Ⅲ　研究の目的と方法

本実践研究では、中学校の国語科で、「伝える力」を高めるための授業実践の知見を得ることを目的にする。その際、以下の三点を留意点とする。

一、「伝えたい」という動機づけが話し手になされる話題を教材にする。
二、「伝える」ことが相互作用を伴う行為であると生徒が学べる言語活動を設定する。
三、生徒の言語活動を見取った上で授業者がフィードバックを行う。

一について、本実践研究の目的に鑑みて、生徒が活発に「話すこと・聞くこと」の言語活動を行える話題を教材とする。

二について、「相手が今どのような状況であるかを意識して伝えていない（田中・宇田川、2016）」ことで、生徒の伝える力は高まっていない可能性があると考えられる。生徒の「伝える」ことに対する認識を広いものに改めていくために、「伝える」ことの相互作用性に気

づける学習活動が有効だと推察される。

三について、堀（2016）は「話すこと・聞くこと」の活動の日常性を踏まえた上で、その言語活動から「言語技術を抽出し、教師がそれを取り上げてまとめると、子どもたちはその言語技術を実感的に捉えることができる」と論じている。このことを本実践研究の目的に当てはめる。すると、「伝える」活動の中から相互作用があった場面を中心に授業者が見取り、それを学習者にフィードバックで価値づけすることが、生徒の伝える力を高める一助になると考えられる。

以上、本実践研究の目的と留意点を述べた。以下は仮説と方法について述べる。

本実践研究は、上述した三つの留意点を踏まえた単元授業の実施により、生徒の「伝える力」が高まることを仮説の一つとする。

ただし、「伝える力」が高まったかどうかを見取るのには困難さがあると考えられる。そこで、今回は単元の最初と最後に同一内容のアンケートを実施する。具体的には、「自分の考えを上手く伝えるために大切だと思うこと」について回答を求めるアンケートを単元の前後に行い、内容を質的に比較する。単元前に比べて、単元後の方が量的・質的な高まりが見られるというのが、今回の仮説の二つ目である。

Ⅳ　授業の実際

１　第１時

第１時では、生徒に単元全体の見通しが立つような言動を心がけた。また、「自分の考えを上手く伝えるためには何が大切か」ということを考え続けながら学習を進めることを確認した。その後、石川・平山（2010）の「絵図伝言ゲーム」を参考に与えられた絵図（図１参照）を言葉だけで相手に伝える活動を行った。この活動の中で、単元目標とする姿が見られた場合は簡単な記録をした。そして、活動直後にフィードバックを行った。

あるクラスでのフィードバックの様子を以下に記す。

授業者：今、ゲームを見ていて、例えばＡさんはこの斜めの線（絵図の右上を示す）について、「四角形の対角線になるような線を、右上から中心を通るように引いて」と言っていたんだよね。

学習者：（笑いや感嘆といった、肯定的と思われる反応がなされる）

授業者：こういう風に、伝えることを具体的な言葉にするのが、時に必要になるかもしれないですね（黒板に「具体」と書く）。あと、Ｂさんなんだけど、「まず、左下に〇を描いて、そう、それから右に……」って、Ｃさんが描くのを見ながら指示していました。こういう、言う順番（黒板に「順序」と書く）。も大事ですね。そして、相手の描いているスピードに合わせて伝えていたのも良かったです。

多かれ少なかれ、このようなフィードバックを全クラスで行った。そのあとに、「全員が『良い』と思う高校はどのような高校か？」というテーマで単元を通して話し合い、最後はグループごとのプレゼンテーションまで行うことを確認した。その際、話し合いやプレゼンテーションはあくまで「伝える」ことについて考えて実践する手段であることも押さえた。第１時の最後は、「上手く伝えるためには何が大切だと思うか」という旨のアンケートを実施した[注1]。　図１は、第１時の板書の実際である。

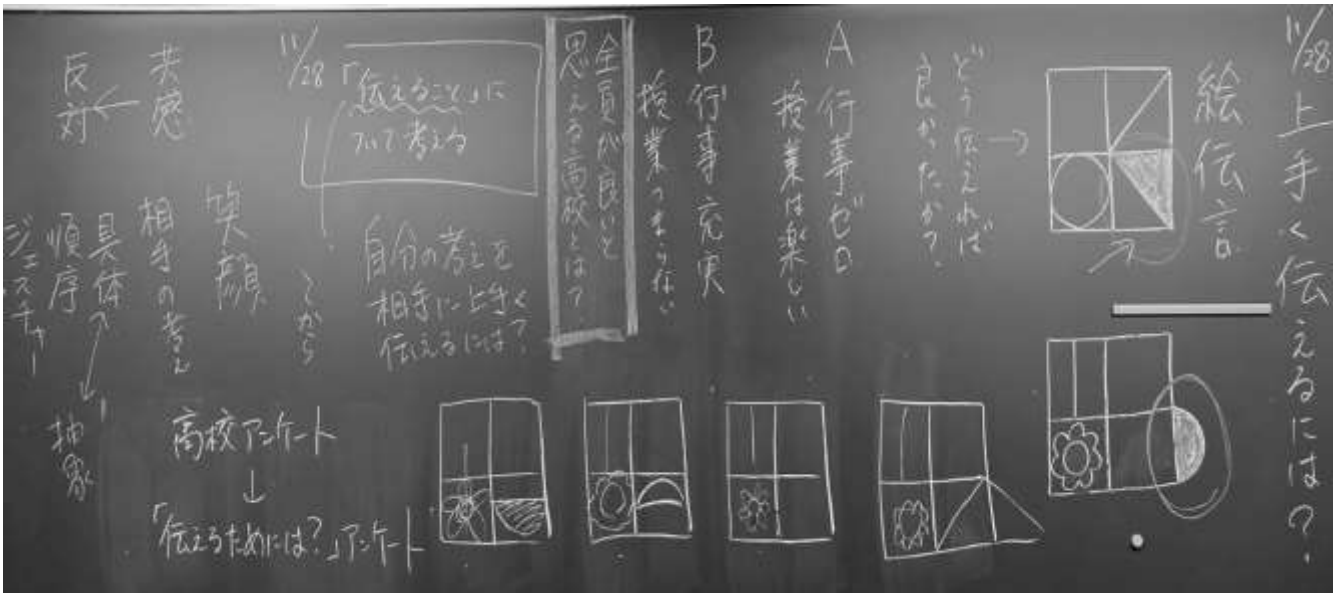

図１　第１時の板書

２　第２時

第２時は、第１時の学習を振り返ったあとで、「全員が『良い』と思う高校はどのような高校か？」というテーマについて考え、伝え合う活動を行った。

まず、前時の授業で生徒から出てきた全ての意見（表１）をクラスに示した。

表１　あるクラスで出てきた「全員が『良い』と思う高校」についての生徒の回答

近い	校舎が綺麗で校則が緩く学費が安い	青春を謳歌できる
楽しい	校則が厳しすぎず、緩すぎない	平和
授業が楽しい	勉強する環境がめっちゃいい	青春
青春ができる	集まってくる人が自分と気が合う人が多い	先生が面白い！
家から近い	指定校推薦がもらいやすい	行事が盛り上がる
家から近い	先生が生徒一人ひとりに寄り添える環境	授業の先生が面白い
校舎がきれい	先生が優しくて話しやすい	授業が楽しい
施設がきれい	校舎がきれいでなるべく近いところ	授業や部活が楽しい
青春ができる	毎日たのしい！！！	広い
生徒思いな先生がいる	いじめがなくて、先生と生徒の心の距離が近い	授業の先生が面白い
先生や先輩の態度が良い	学費が安い、授業の質がいい、先生が明るい、校舎が綺麗	
みんなそれぞれ重視しているものは違うから全員がいいと思える学校はないと思う		

次に、意見を８～１０個の項目にまとめていった。授業者である私が主導ではあるが、なるべく生徒の反応を見ながら、彼らが主体的に項目を決めたという感覚が持てるように配慮した。そして、項目はデジタルホワイトボードの付箋に入力した。生徒はこれを操作することで自分の考えを表現した（図3）。小グループに伝えた。第１時で「伝える」活動は個人

から個人であったが、今回は個人から少人数へであった。このとき、たとえばあるクラスでは自然と敬語になっている生徒がいた。そのように「相手に応じて」あるいは「場の状況に応じて」表現を変化させている場面などを全体にフィードバックして価値づけした。また、生徒相互で、お互いの伝え方に関するフィードバックを行う時間も設定した。

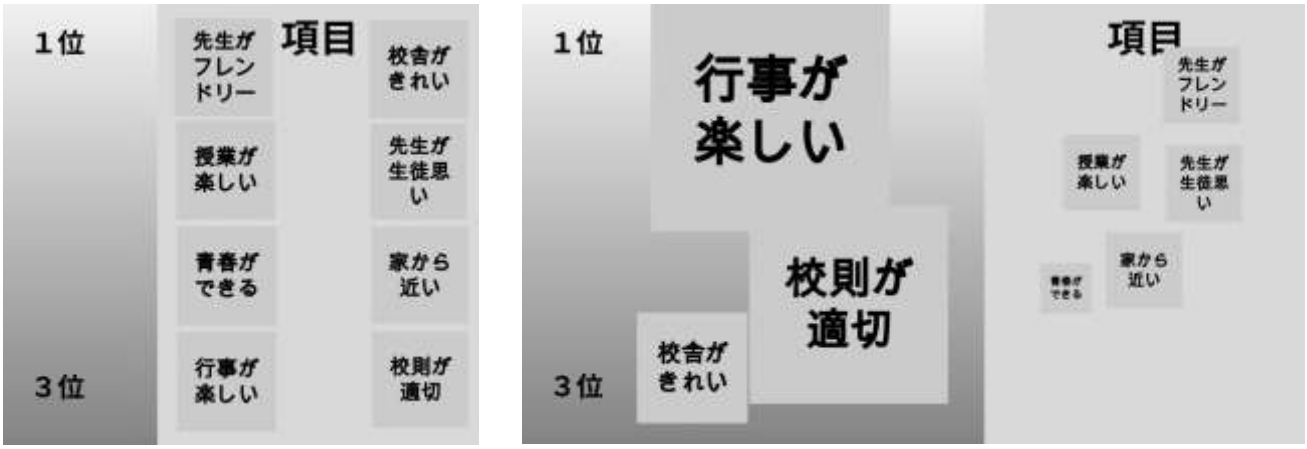

図３　第２時で使用したデジタルホワイトボードの例（右が生徒によって操作されたもの）

３　第３、４時

第３、４時はクラス全体へ小グループごとに「全員が良いと思える高校のプレゼンテーションを行った。

まず、生徒一人ひとりにプレゼンテーションを見ながら記録を行う評価表を配付した。評価項目のうち一つは、生徒が第１時で答えた「あなたは、上手く伝えるために何が大切だと思いますか？」のアンケート結果を踏まえて生徒と共に作成した。具体的には、最初に第２時と同じように、クラス全員のアンケート結果（表２）を提示した。

表２　あるクラスの「あなたは、上手く伝えるために何が大切だと思いますか？」への回答

語彙力	相手の目を見て真摯になって物事を話す
笑顔	身振り手振りや相手が分かるような物や事に例えるなどのことが大切
要点をうまく繋げて伝えること	
明確な根拠	ハキハキ喋ること
自分の考え	身振り手振りとある程度の語彙力
話す速度、相手の反応を見ながら身振り手振りをつけて話すこと	ジェスチャーなどを使う
	身振り手振り
主語をつけること	表情や感情気遣いや語彙力
目があっていること	要点を抑えて伝える
身振りや細かく伝えて相手と目を合わせる	伝えることを小さく分けて説明する
語彙力、相手の反応を見ながら、ジェスチャーや具体的な例の提示	表現力とジェスチャー
	ジェスチャーを使って伝える
身振り手振りとか	相手にどう受け取られるか考えながら話す
伝えるものに例えをつけたり毎回毎回わかったか聞いてみる	その場に合わせて具体、抽象で使い分ける
	言葉だけでなくジェスチャーをうまく活用する。
たとえを使う、手で表現する	言葉だけでは伝えにくいこともあるので図や表を用いることが重要だと思った。
相手にとって分かりやすく説明すること。	
相手の反応を見て臨機応変に伝え方を変える	具体的に簡単な言葉で伝えること
相手の意見に理解を示しながら、自分の意見を理由とともに伝えること	難しい言葉を使わない！

そして、評価する項目について話し合い、クラスごとに決定した。例えば、表２に示したクラスでは項目の一つが「ユーモアがある」になった。評価表の元は下の図２に示す。

／　プレゼン「全員が良いと思う高校とは」
年　　組　氏名（　　）（　　）班

役割　・前に立って発表する人
・資料を作る人
・他の班の「伝え方」について感想を言う人

	あてはまるものに○			
班	ほどよいジェスチャーがあった	相手にとって分かりやすい言葉や表現を使っていた	伝えたいところが伝わる工夫がされていた	
P				
Q				

発表順

（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班
↓
（　　）班

※2つ先の班について感想を言う。

※伝え方についての感想は、全ての班の発表が終わったあと、担当者が各グループに言いに行く。

活動の振り返り

お互いのためになるように活動できた……S ・ A ・ B ・ C

相手のことを考えながら、自分の考えを伝えられた……S ・ A ・ B ・ C

これまでの授業を生かして、考えを伝えることができた……S ・ A ・ B ・ C

自分の「伝えること」についての考えが広がったり、深まったりした……S ・ A ・ B ・ C

図２　第３、４時で用いた評価表

生徒のプレゼンテーションに入る前に、私がデモンストレーションを２回行って生徒に評価させた。プレゼンテーションは視聴覚機器を用いた。生徒が作ったプレゼンテーションの例は図３に示す。プレゼンテーション後はグループ相互で伝え方に関するフィードバックの時間を設けた。私はプレゼンテーション直後のフィードバックは控えた。そして、相互フィードバックの時間を含め全ての活動が終わったあとで、生徒間では気付けていなかったと思われる事項を中心にフィードバックを行った。最後に、第１時と同じく「上手く伝えるためには何が大切だと思うか」という旨のアンケートを実施した。生徒は全体を通した振り返りを行い、単元は終了した。

図３　第３、４時で生徒が作成したプレゼンテーションの例

４　結果と考察

（１）　生徒アンケートの分析方法

第１時のアンケート回答人数は 164 人であり、記述の総文字数は 2911 文字であった。一人あたり換算 17.75 文字となる。第４時のアンケート回答人数は 158 人であり、記述の総文字数は 3142 文字であった。一人あたり換算 19.88 文字となる。「Ⅵ　資料」に詳細を示す。

生徒のアンケートの記述のうち、本研究の目的に沿っていないと判断されたデータ（例：無記入や、「こと、」など記述内容が読み取れないもの）以外は全て分析の対象とした。記述は「第１時アンケート記述」と「第４時アンケート記述」に分けて分類した。なお、後者に関して、4 時間の授業計画で終わらないクラスも一部あった。その場合でも、単元の終了時にアンケートを実施し、その記述を分析に含めた。また、分析にあたり、研究対象の文字データを意味の繋がりのある文ごとに切片化して、切片を KJ 法（川喜多二郎、1970）の援用により分類した。以下に詳細を記す。

まず、第１時アンケート記述の切片をランダムに並べて、似た内容と判断されたものを集約して小カテゴリ化した。次に、小カテゴリの内容を要約したタイトルをそれぞれに付けた。さらに、似た内容と判断された小カテゴリを集約して、中カテゴリ化した。そして、中カテゴリの内容を要約したタイトルをそれぞれに付けた。最後に、中カテゴリと小カテゴリをそれぞれ構成する切片数の降順に並び替えた。次に、第４時アンケート記述の切片をランダムに並べて、第１時アンケートで付けられたタイトルごとに分類した。

（２）　分析結果

第１時アンケートの記述の文字データを意味のある文ごとに切片化したところ、合計 165 の切片に分けられた。切片を KJ 法の援用により分類したところ、４つの中カテゴリと、それらを構成する 11 つの小カテゴリ、１つの独立した小カテゴリにそれぞれ分類された（表 3）。

表３　第１時アンケート記述の分類

中カテゴリ	*n*	%	小カテゴリ	*n*	%	主な記述
身体的表現	51	33.3	ジェスチャー	35	22.9	言葉だけでは伝えるのが難しいと思うので、ジェスチャーを使ったりして、相手が理解できるように自分が工夫することが大切だと思いました。
						身振り手振りを使う
			表情	9	5.9	笑顔で具体的に伝えることだと思います
						笑顔で身振り手振りする
			アイコンタクト	7	4.6	相手の目を見て真摯になって物事を話す
						焦らず、目を合わせて話す
言語的表現	48	31.4	構成	18	11.8	要点をうまく繋げて説明をする。
						相手に伝えることをあらかじめ考えておく
			具体化・抽象化	11	7.2	的確な具体例を出しつつ、落ち着いて説明すること
						具体と抽象をほどよく織り交ぜる
			語彙	10	6.5	順序よく、難しい言葉ばかり使わないで自分の言葉で噛み砕きながら話すこと。
						言葉の表現を広げる
			話し方の工夫	9	5.9	声色の使い分け
						声のトーンや印象を良くすること
相手意識	45	29.4	相手の理解の確認	24	15.7	伝えている最中に今の段階で話が伝わっているかを確認に具体的な説明をすることが大切だと思いました。
						一人で突っ走らずに相手が自分の話についてきているかどうかを確認しながら話すこと。
			状況への対応	21	13.7	相手に一番伝わりやすい言葉遣いを選ぶこと
						相手の立場からみて説明し、わかりやすく簡潔にまとめて伝える
資料の活用	9	5.9	図解	7	4.6	言葉だけでは伝えにくいこともあるので図や表を用いることが重要だと思った。
						図や表を活用して、相手にわかりやすく視覚的に伝えること
			根拠	2	1.3	根拠をしっかり伝える
						明確な根拠
			自分の考えの明確化	12	7.8	自分の考えを持つ
						自分が伝えたいものを伝えるために努力すること
計	153	92.7		165	100.0	

また、第４時（単元終了時）時アンケート記述の文字データは同じく 160 の切片に分けられた。そして、第１時アンケートで付けられたタイトルごとに分類した（表 4）。以下に詳細を記す。なお，主なアンケート記述内容は「」，小カテゴリのタイトルは〈〉，中カテゴリのタイトルは【】内にそれぞれ記す。

第一に見られた内容は、〈ジェスチャー〉、〈表情〉、〈アイコンタクト〉の３つの小カテゴリにそれぞれ分けられた。

〈ジェスチャー〉は「身振り手振りを使う」といった動作を「伝える」ことに用いる有効性に言及しているものが含まれていた。

〈表情〉は「笑顔で具体的に伝える」や「表情豊かに話す」といった、話し手の表情が聞き手に与える影響について言及しているものが含まれていた。

〈アイコンタクト〉は「人の目をしっかり見て話す」といった、話し手への目配りの効果に言及しているものが含まれていた。

これら３つの小カテゴリはいずれも「伝える」ことに身体の動きが影響することを認識していると考えられる内容が多いため、集約され【身体的表現】という中カテゴリとして生成された。

第二に見られた内容は、〈構成〉、〈具体化・抽象化〉、〈語彙〉、〈話し方の工夫〉の４つの小カテゴリにそれぞれ分けられた。

〈構成〉には、「要点をうまく繋げて説明する」、「共感する内容を始めに話す」といった「伝える」内容の順序や配分について言及するものが含まれていた。

〈具体化・抽象化〉には、「的確な具体例を出しつつ」や「身近なものにたとえる」など、分かりやすく「伝える」ために詳しく話したりまとめて話したりすることの必要性について言及するものが含まれていた。

〈語彙〉には、「語彙力と表現」、「難しい言葉ばかり使わない」といった同じ意味でも言い方によって伝わり方が変わりうることに言及するものが含まれていた。

〈話し方の工夫〉には、「声色の使い分け」や「相手に聞こえるように大きくはっきりと喋る」といった話のアクセントや声の大小に言及するものが含まれていた。

これら４つの小カテゴリはいずれも「伝える」ことに言葉の要素が影響することを認識していると考えらえる内容が多いため、集約され【言語的表現】という中カテゴリとして生成された。

第三に見られた内容は、〈相手の理解の確認〉、〈状況への対応〉の 2 つの小カテゴリにそれぞれ分けられた。

〈相手の理解の確認〉は、「相手の様子を伺いながら、理解が追いついていないようならもう少し簡単な言葉を使ったりして」といった、伝えている最中に相手に伝わっているかを確認する重要性について言及するものが含まれていた。

〈状況への対応〉は、「相手に一番伝わりやすい言葉遣いを選ぶ」や「他者から見ても楽しいと思えるような」といった、相手やその場の状況を踏まえた上で「伝える」ことの重要性について言及するものが含まれていた。

これら 2 つの小カテゴリはいずれも「伝える」ことが相手や状況に依存する行為であることを認識していると考えられる内容が多いため、集約され【相手意識】という中カテゴリとして集約された。

第四に見られた内容は、〈図解〉、〈根拠〉の 2 つの小カテゴリにそれぞれ分類された。

〈図解〉は、「図や表を用いる」といった、非言語で表すことの効果について言及するものが含まれていた。

〈根拠〉は、「明確な根拠」や「データなどをもとに発表する」といった、伝えたいことに関する数値や論理的な根拠について言及するものが含まれていた。

これら 2 つの小カテゴリはいずれも「伝える」内容を補助する要素について言及する内容が多いため、集約され【資料の活用】という中カテゴリとして集約された。

第五に見られた内容は、〈自分の考えの明確化〉という小カテゴリに分類された。このカテゴリには「自分の考えを持つ」や「『伝えよう』という意思を持ち続け、行動に示す」といった、「伝える」行為に対して主体的になることの重要性について認識していると考えられるものが含まれていた。

表4　第4時（単元終了時）のアンケート記述の分類

中カテゴリ	*n*	%	小カテゴリ	*n*	%	主な記述
言語的表現	56	37.8	話し方の工夫	27	18.2	場面によって声の大きさを変えたり、図などを用いてわかりやすくまとめて伝えること 相手に聞こえるよう大きくはっきりと喋る
			構成	19	12.8	先に伝えたい要点を決めておいてから、そこに具体例とかを付け足していくようにする 共感する内容を始めに話すこと
			具体化・抽象化	6	4.1	具体例や質問を投げかけること 身近なものにたとえる
			語彙	4	2.7	語彙力と表現 難しい言葉を使わない
身体的表現	43	29.1	ジェスチャー	27	18.2	相手に分かってもらいたいという考えから出るジェスチャーとアイコンタクトだなと思った ジェスチャーや行動で見せることでとにかくこの話題面白いと思わせる
			アイコンタクト	9	6.1	人の目をしっかり見て話す 相手の方を見る
			表情	7	4.7	聞いている一人ひとりの目を見て表情豊かに話すこと ジェスチャーと、相手に伝わっているかを表情などを見ながら確認して話すこと
相手意識	36	24.3	相手の理解の確認	22	14.9	聞いている人に気を引くために問いかけたりして参加型の伝え方をすることが大切 相手の様子を伺いながら、理解が追いついていないようなもう少し簡単な言葉を使ったりして相手を納得させられるような工夫が大切なのかなと思った。
			状況への対応	14	9.5	ただ自分だけで話すのではなく聞いている人も巻き込むような他者から見ても楽しいと思えるような授業 書いてあることだけを言うだけでなく、話し言葉も使うと、相手にとってわかりやすくなると思った
資料の活用	13	8.8	図解	9	6.1	ただ聞かせるだけでなく資料などを活用することで視覚的にも情報を与えて相手が理解しやすくすること。 相手が分かりやすいスライドや説明
			根拠	4	2.7	理由を根拠を持って述べている データなどをもとに発表する
			自分の考えの明確化	12	8.1	アイコンタクトや笑顔、言葉遣いも大切だと思うけど、何よりどれだけ自信をもって相手に伝えられるかが最も重要だと思った 相手に伝わるまで「伝えよう」という意思を持ち続け、行動に示すこと。
計	148	92.5		160	100.0	

（３）　考察と今後の課題

前項にアンケートの分類結果を述べた。以下に考察を述べる。

本実践研究では、中学校の国語科で、「伝える力」を高めるための授業実践の知見を得ることを目的とした。そのために、一、「伝えたい」という動機づけが話し手になされる話題にする　二、「伝える」ことが相互作用を伴う行為であることを生徒が学べる言語活動を設定する　三、生徒の「話すこと・聞くこと」の言語活動を見取った上で授業者がフィードバックを行うといった三つの留意点を踏まえた単元授業の実施により、生徒の「伝える力」が高まることを仮説とした。また、「上手く伝えるためには何が大切だと思うか」という旨のアンケートを単元前と単元後に実施したとき、記述が前者より後者の方が量的・質的な高まりが見られることも仮説とした。

本実践研究の生徒のアンケート記述からは、上述した留意点を踏まえて「話すこと・聞くこと」の単元授業を行った場合、生徒の「伝える」ことに対する認識が変容しうることが示唆された。

まず、「伝える」ことの向上を考えながら「話すこと・聞くこと」領域の言語活動を活発に、様々な形態で行うことで、生徒がこれまでの既習事項に自覚的になり、より目的を意識して活用しようとする可能性が本実践研究から推察された。例えば、生徒から多く出てきた要素の一つに「ジェスチャー」があった。ジェスチャーは「伝える」上で重要であろう。しかし、相手の状況を意識していないと、自分の考えが上手く伝わっていないと感じてしまう可能性（田中、宇田川2015）に鑑みれば、ただジェスチャーをすれば良いという訳ではないことが推察できる。今回の単元では、様々な「伝える」活動の中で、時には相手に上手く伝

わらないという経験も生徒は味わった。その逆も然りである。それぞれの原因を考えていく中で、ジェスチャーは「相手に分かってもらいたいという考え」、すなわち感情の発露として自然に出ることや、「とにかくこの話題面白いと思わせる」のような目的の上で必要に応じて使うという認識に変化したことが示唆される。

また、「伝える」活動の共同作業性（有元、2019）に気付けたとき、生徒の「伝える」ことへ認識が広がる可能性が推察された。生徒アンケート記述で、単元前にはなく、単元後に見られた言葉として「参加」や「巻き込む」といったものが挙げられる。これは、特に単元の第３、４時のプレゼンテーションを見ての気づきが大きいと考えられる。この時間での授業は小グループがクラス全体に対して「全員が良いと思う高校」のプレゼンテーションをした。このとき、グループによってはクイズを出して聞き手に回答を求めたり、事前に聞き手にリアクションを依頼していたりといった工夫が見られた。これらの工夫について、発表終了後の生徒同士のフィードバックで価値づけられている様子が見られた。生徒は、他者から価値づけられたり、自分自身で気づいたりして、「伝える」ことへの認識を広げていったことが示唆される。

このことに関連して、「伝える」活動を通して生徒が「思考力・想像力」が養われる可能性が本実践研究から示唆された。このことについて、以下にある生徒２人のアンケート結果を載せる（表５）。

表５　生徒のアンケート結果の例

１回目回答	２回目回答
自分の意見を正直に言うことと相手のことを考えて発言すること	スライドを作る場合、色の変化でネガティブかポジティブかどうかを伝えたり、共通して、落ち着いてジェスチャーを使って話したりすることが大切だと思いました。
聞く人の立場になって考える。事前準備をしっかりする	一方的ではなく相手も参加させる

彼らは単元で「伝える」活動をする前から「相手のことを考えて発言する」や「聞く人の立場になって考える」といった、相手意識をもって伝えようと考えていることが分かる。彼らだけでなく、どの生徒も多かれ少なかれ場面や相手を想像し、考えた上で伝えようとするだろう。もちろん、これは今までの彼らの体験が基になっていると考えられる。しかしながら、それでも単元で実際に「伝える」活動を行うことによって、新たな気づきや理解があった。例えば、プレゼンテーションでは「色の変化でネガティブかポジティブかどうかを伝え」うるといった視覚的要素への気づきや、「一方的ではなく相手も参加させる」といった相互行為の大切さの理解である。これらはその後の活動に活かされていくはずである。

要するに、生徒は「思考力・想像力」を働かせて「伝える」すなわち「伝え合う」活動に臨み、活動からまた「思考力・想像力」が培われるといったサイクルが示唆される。なお、そのことに生徒は無自覚でいる場合もあろう。それを教師が見取り、彼らに自覚させることも重要であると考えられる。

以上、本実践研究の結果に対する考察を述べた。最後に今後の課題について述べる。

本実践研究の結果を受けて生徒の「伝える力」が直接高まったとは示せていないと考えられる。言えるのは生徒の「伝える」ことに対する認識が変容した可能性だけである。この認識を実際の「伝える」活動に転移するための手立てについては本実践研究で明らかにすることができていないと考えられる。

また、「伝える」ないし「伝え合う」ことに情報の発信者と受信者を想定したとき、今回は発信者についての力を高めようとする実践研究であった。しかし、受信者の役割も発信者と同等に重要であると考えられる。以下に、紹介する生徒の振り返り[注2]は、そのことを示唆

している。

> 説明文を要約して相手に伝えるときに、相手の人が自分のスライドや自分の目を見て話を聞いてくれていると安心して落ち着いて話せるけど、相手がどこかちがうところを見て話を聞いてるときは少し傷ついたり、嫌な気持ちになったので、相手が何かを伝えようとしているときは、相手の練習（原文ママ）や、ジェスチャーがあるかないかも発表に関わるけど、聞く人の姿勢も大事なんだと気付いたので、相づちをしたり、相手の目を見て話を聞こうと改めて思いました。

本実践研究では、受信者に対するアプローチがほとんどできていない。「伝える」ことを「伝え合う」ことと同義と仮定して実践をするならば、受信者の学習なるものが必要だったと考えられる。

そもそも、何をもって「伝える力」が高まったと言えるのか、それを国語の授業で行うことができるのか、そこから考える必要があろう。そのための実践研究が今後望まれる。

注

１）本実践の一時と四時で行ったアンケートの設問は以下の通りである。
・クラス
・出席番号
・氏名
・あなたは、上手く伝えるために何が大切だと思いますか？

２） 生徒は普段の授業で振り返りを記入している。しかし、どの授業について書くかは個人の判断に委ねられている。また、２週間分（６回）振り返りをした時点で、その２週間分の振り返りも記入している。よって、紹介した生徒の振り返りは本実践研究の単元だけでなく、その後の授業も含んだものとなっている。

引用・参考文献

有元典文（2019）「教育におけるパフォーマンスの意味」有元典文・香川秀太・茂呂雄二編『パフォーマンス心理学――共生と発達のアート――』新曜社、141-159

石川晋・平山雅一（2010）「中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集」学事出版

川喜多二郎（1970）続・発想法――ＫＪ法の展開と応用　中央公論新社

堀裕嗣（2016）国語科授業づくり10の原理・100の言語技術義務教育で培う国語学力明治図書

田中恵美・宇田川信（2016）児童・生徒のコミュニケーションの在り方に関する研究（最終報告）――情報ツールが及ぼす影響の分析を通して――神奈川県立総合教育センター研究集録第35集、19-26

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』東洋館出版社

Ⅴ　研究授業

国語科学習指導案

座間市立相模中学校
指 導 者　小黒　竜太

１ 日　時　　令和５年１１月２９日(水) 第５校時(13：30～14：20)

２ 学年・組・場所　第３学年４組(３８名)・教室

３ 単　元　名　　「自分の考えを上手く伝えよう」
「合意形成に向けて話し合おう」（光村図書　中学３年）

４　単元について

（１）単元観

本単元では、学習指導要領に示す第３学年〔知識及び技能〕（２）情報の扱い方に関する事項、「ア　具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。」と〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ　話すこと、聞くこと」の指導事項、（１）「ア　目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，多様な考えを想定しながら材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。」と「ウ　場の状況に応じて言葉を選ぶなど，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」と「オ　進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い，合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。」を学習する。

本単元では、話し合いを通して、自分の考えを伝える力を高めることを想定した。伝えることは相手との相互行為であると認識することが、その力を高めることにつながると考えられる。 例えば、本単元では、まずはブレインストーミングによってアイディアを出し、話し合いを通して具体的な提案に絞り、その後全体会議を開いて話し合うという流れとなっている。最初はペア、その後はグループ、そして教室全体へと、自分の考えを伝える場が大きくなっていく展開である。それにしたがって、より公的な言葉遣いを用いることに気づかせ、使える力を付けたいと考える。

また、グループごとに話し合うテーマを変え、その内容を他のグループに伝える学習活動を取り入れた。このように自分たちは知っている内容をまだ知らない相手に伝えるときには、話の内容の具体性や抽象性を変化させる必要があると考えられる。学習活動を通して、相手の反応やその場の時間に応じて具体例を入れたり話を抽象的にまとめたりする意識を付けたいと考える。

（２）生徒観

本単元で扱う〔知識及び技能〕（２）情報の扱い方に関する事項、「ア　具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。」について、第３学年で「具体化・抽象化」を扱った際には、具体と抽象の関係にある論理の展開を理解できた生徒が多かった。そして、それを説明的文章の読解に活かせる生徒も少なくなかった。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ　話すこと、聞くこと」の指導事項について、ペア学習のような少人数内でお互いの考えを伝え合う学習活動を行ってきた。また、視聴覚機器を利用した学習活動をした際には、自分の考えを分かりやすく伝えようと表現を工夫できる生徒も見られた。一方で、相手とのやり取りの中で伝える表現を変えたり、相手の考えに対して自分の考えを伝えたりすることに苦手意識を持つ生徒が何割かいると考えられる。これは、生徒が伝えるという行為を一方向的なものと捉えていることに起因すると推察され

る。伝えるという行為には必ず相手がいる。つまり学習指導要領でいう「人間と人間との関係の中で」起こる行為である。よって、伝えるということには伝え合いの要素が含まれていると考えられる。自分が用意したことを伝えるだけでなく、相互行為として伝え合いを行う指導の継続が必要である。

（３）指導観

単元を通して伝える力を高めていきたい。そのために、「場の状況や相手の反応によって伝え方を変えたり、相手の発言を活かして伝えたりする」ことを促していきたい。

「場の状況や相手の反応によって伝え方を変えたり、相手の発言を活かして伝えたりする」ために、生徒には「伝えるということは、相手との相互行為である」ことへの気づきを促したい。例えば、ペア学習内で伝え合いを行った際、前述したことができている生徒同士のやり取りを全体に紹介する。また、これまでの学習の中で、生徒は相手の発言に対して頷きやリアクションといった「反応」が大切であることを学んでいる。そこから一歩踏み込んで、なぜ「反応」が大切なのか考えることも促していきたい。その過程で、相手意識を持って伝える態度を養うこともできると考えられる。

相手意識を持つと「相手に言いたいことが伝わっているか」を念頭において伝えるようになると考えられる。また、聞く側は必要に応じて意見や質問を伝えるようになるだろう。このような場面を指導者が捉え、全体にフィードバックしていきたい。場合によっては、学習活動の前に「聞き手の反応によって言い方を変えること」や「相手の言っていることを言い換えて繰り返す」といった「話す・聞く」の技術を指導する必要もあるだろう。

なお、今回の単元では「全員が良いと思う高校はどのような高校か」ということについて話し合い、プレゼンする学習活動を取り入れている。自分の考えを持ちやすくするところにそのねらいがある。考えを表出することが苦手な生徒には、自分を主語にして考えることを促したい。

５　単元目標

（１）具体と抽象の部分の関係を意識しながら伝えることができる。

〔知識及び技能〕(２)ア

（２）多様な考えを想定しながら伝え合う内容を決めることができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕A(１)ア

（３）状況や相手に応じて表現を変えながら伝え合うことができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕A(１)ウ

（４）お互いの発言を活かして伝え合い、合意形成に向けて話し合うことができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕A(１)オ

（５）言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

６　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体例から言いたいことをまとめたり、抽象的な表現を具体的に言い換えたりして伝えている。(２)ア	①多様な考えを想定して伝え合う内容を決めている。（A(１)ア） ②相手の反応や人数などによって伝え方が変わりうることを理解して、伝え合いに活かしている。（A(１)ウ）	①学習の見通しをもち、学習課題に沿って進んで自らの考えを伝えたり書いたりしようとしている。

	③相手の発言を生かして自分の発言をし、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。（A(1)オ）	

7　単元の指導・評価計画（４時間扱い）
【○】記録に残す評価【・】指導に生かす評価

時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準
1	○本単元で付けたい力等を知り、単元全体の見通しを持つ。	・身近な話題について話し合う。 ・「全員が良いと思う高校はどのような高校か」という課題を設定し、学習計画を立てる。 ・課題について、どのような意見が出てくるか予想して、他者に伝える。 ・伝える力を高めるためにどのようなことが必要なのか考える（資料１）。	○		・	知－① 言いたいことを分かやすくするために、相手の反応などに応じて言いたいことを抽象的にまとめたり、具体例を用いたりといったことが必要であることに気づき、話すことに生かそうとしている。（振り返り・観察） 態－① 学習課題を理解し、単元全体の見通しを持とうとしている。（振り返り・観察）
2本時	○多様な考えを想定して伝え合う内容を決める。 ○自分や自分たちの考えを分かりやすく伝え合う。	・前時の学習を振り返る。 ・クラスの考えから、自分が大切だと思うものを考える。 ・自分の考えをグループに伝え、グループとして大切だと思う考えについて合意形成する。 ・他のグループから聞き取った内容を自分のグループに伝え、全体に伝える内容を考える。		○		思—① 話題に対して多様な考えが想定して、それを踏まえて伝え合う内容を決めている。（デジタルホワイトボード・観察） 思－③ 相手の考えについて自分の考えを持ち、自分が伝えることに生かそうとしている。（振り返り・観察）
3 4	○状況に応じた伝え方について考える。	・グループとして、「全員にとって良い高校」を全体に提案する。 ・ペア、グループ、全体それぞれの伝え方の違いについて振り返る。 ・単元と１時で考えたことを振り返りつつ、伝える力を高めるためにどのようなことが必要なのかを考える。		○	○	思－② 相手の反応や人数などによって敬語を用いるなどして表現を工夫して伝え方が変わりうることを理解して、伝え合いに生かしている。（振り返り・観察） 態－① 相手の発言や単元を振り返って考えたことを話したり書いたりしようとしている。（振り返り）

8　本時の指導（2／4）

（1）目標

〇多様な考えを想定しながら伝え合う内容を決めることができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)ア

〇お互いの発言を活かして伝え合い、合意形成に向けて話し合うことができる

〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)オ

（2）実現状況を判断する際の具体的な生徒の姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する（C）と判断した生徒への具体的な手だて
思考・判断・表現	多様な考えを具体的に想定し、伝え合う内容を決めようとしている。また、お互いの発言を活かして伝え合い、自分の役割を変化させながら、合意形成に向けて話し合っている。	多様な考えを想定した上で、伝え合う内容を決めようとしている。また、お互いの発言を活かして伝え合い、合意形成に向けて話し合っている。	伝え合う内容を決めるときに、自分が一番興味のある物事を基準に決定するように促す。また、他のグループから伝えられた内容を、短くまとめて自分たちのグループに伝えられるように促す。

（3）展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価(観点・場面・方法)
導入	・前時の学習を振り返る。 ・本時の学習の見通しを持つ。	・伝える力を高めるための単元である意識を喚起する。	
展開	グループに自分の考えを上手く伝えよう。 1 クラスの考えを項目ごとにまとめたものについて、個人として優先するものを考える。 2 個人の考えをグループで共有する。 3 グループとして発表したいものを2つに絞り、良さを考える。 4 自分達の考えを他のグループに伝える。 5 自分たちのグループに戻って報告する。全体に発表したいものを1つに絞る。	・考えていることを全て書き言葉で表そうとせず、簡潔にまとめる。それにより、このあとの伝え合い活動に必然性が生じさせる。 ・伝え合い活動の様子から、「多様な意見を想定している内容(例:『こう言われそう』といった発言)」や「お互いの発言を活かした伝え合い(例:相手の伝えたことに意見を言ったり質問したりしている様子)」は適宜フィードバックして、相互行為としての伝えることを価値づけていく。	**思** 話題に対して多様な考えが想定している。また、相手から伝えられたことについて自分の考えを持ち、自分が伝えることに活かそうとしている。(デジタルホワイトボード・振り返り・観察) 〈手立て〉 伝え合う内容を決めるときに、自分が一番興味のある物事を基準に決定するように促す。また、他のグループから伝えられた内容を、短くまとめて自分たちのグループに伝えられるように促す。
まとめ	・ 本時の学習の振り返りをする。	・自分が上手く伝えられたか、その理由について振り返るように促す。	

Ⅵ　資料

１　アンケート結果

以下に、アンケート「あなたは、上手く伝えるために何が大切だと思いますか？」への１回目と２度目の回答を示す。同じ列は同一生徒による回答である。なお、空欄はそのほとんどが欠席による無回答である。

１回目回答	２回目回答
ジェスチャーやアイコンタクト	伝えようとする気持ち
気持ちを込める	ジェスチャーなど入れて紙ばかりを見たりしないでみんなを見たりわかりやすいスライドを作ったり色々な工夫を入れたりしてする
具体的にわかりやすく笑顔で伝えること	相手に伝わればいいと思う
ジェスチャーや写真を見せたりする。	ジェスチャー　相手の目を見る
相手の目を見る	
ジェスチャーや確認、具体性など相手に伝わるような工夫を行う	スライドなどの資料を作ったり、使ったりすること
確認しながら相手のペースに合わせること	伝えたいことを強調すること
順序よくわかりやすいように	問いかけを挟む
語彙力	目をよく見る
確認をして、理解しているかわかるようにする	ジェスチャー
言いたいことを具体的に短くまとめること	ただ聞かせるだけでなく資料などを活用することで視覚的にも情報を与えて相手が理解しやすくすること。
直接話すこと	ジェスチャー
具体的な例を出したりして相手がイメージしやすくする。	
言葉だけでなく表情やジェスチャーも加えながら伝える	周りの人を巻き込む
言葉だけでは伝えるのが難しいと思うので、ジェスチャーを使ったりして、相手が理解できるように自分が工夫することが大切だと思いました。	大事なことをピックアップして、わかりやすい言葉で伝える。
ジェスチャーをつける	簡潔に伝える
ちゃんと伝わればいいと思う	言葉をはっきり言う事
ただ口だけで伝えるのではなくジェスチャーや図、などを使って相手の顔を見て困ってそうな顔をしていたらどこがわからないのか聞いてもう一回説明する	ジェスチャーをしたりスライドを工夫したりすること
	ジェスチャーと表情だなと思いました
相手にわかりやすく伝えようとする気持ち	伝えることをまとめたうえで相手にわかりやすく伝えようとすること
相手の目を見て、具体例を使って簡潔に伝えること	顔を上げてジェスチャーを加えながら説明すること
伝えている最中に今の段階で話が伝わっているかを確認に具体的な説明をすることが大切だと思いました。	
相手の目を見て笑顔に自分の伝えたいことを提示して相手のペースに合わせて話すこと。	
短く、わかりやすく説明をすること	聞き手にも一緒に考えさせる
表現力が１番大切だと思います。	コミュニケーション力
的確な具体例を出しつつ、落ち着いて説明すること	相手への問いかけなど問題へはいりやすい導入
具体例を上げる	書いてあることだけを言うだけでなく、話し言葉も使うと、相手にとってわかりやすくなると思った

具体例を出す イメージがつきやすくわかりやすいため	具体例を出して比較する
語彙力	相手の方を見る
ジェスチャーと言葉をたくさん知っていること	要点を簡潔に示す
具体的な指示を出す	声をはっきり出す
手も使って伝える	
コミュニケーション力	コミュ力
根拠をしっかり伝える	「視覚的に」などわかりやすく伝えられるものも使う
一つずつ言うことが大切だと思った	はっきり喋ることが大切だと思いました
身振り手振りや相手が分かるような物や事に例えるなどのことが大切	声量とジェスチャー、言葉や表現の仕方の工夫
身振り手振りとか	事前にしっかりと準備すること
相手にどう受け取られるか考えながら話す	きちんと相手に伝える意思をもつことが大切だと思う
伝えるものに例えをつけたり毎回毎回わかったか聞いてみる	ジェスチャや行動で見せるとにかくこの話題面白いと思わせる
語彙力	笑顔、ジェスチャー、わかりやすさ
言葉の表現を広げる	ハキハキと喋り、相手に伝えようとすること
自分の考え	表現力
主語をつけること	興味をひきつつジェスチャー使う
相手の反応を見て臨機応変に伝え方を変える	聞いている人見ている人を引き込むこと　注目させる　興味をもたせる
相手の意見に理解を示しながら、自分の意見を理由とともに伝えること	劇を入れるなどして相手の興味を引き寄せること
ハキハキ喋ること	恥ずかしがらないこと
相手にとって分かりやすく説明すること。	具体的に説明する
身振り手振り	
表現力とジェスチャー	楽しそうに表現すること
身振り手振りとある程度の語彙力	笑顔
話す速度、相手の反応を見ながら身振り手振りをつけて話すこと	チームワーク、声量と速度
言葉だけでは伝えにくいこともあるので図や表を用いることが重要だと思った。 笑顔も重要だと思った。	アイコンタクトや笑顔、言葉遣いも大切だと思うけど、何よりどれだけ自身を持って相手に伝えられるかが最も重要だと思った
表情や感情気遣いや語彙力	分かりやすさ、楽しさ
明確な根拠	根拠とそれをわかりやすく伝える表現
伝えることを小さく分けて説明する	身近なものに例える
言葉だけでなくジェスチャーをうまく活用する。	相手の心に残るような工夫をする
要点を抑えて伝える	伝えたいことを相手に伝わりやすい工夫をすることが大切
笑顔	相手の目を見て、必要最低限のジェスチャーを行う
要点をうまく繋げて伝えること	想像力
難しい言葉を使わない！	相手が分かる言葉や例を使う
ジェスチャーを使って伝える	ゆっくり話す
身振りや細かく伝えて相手と目を合わせる	共感や自分の意見を混ぜながら話すこと
	アイコンタクトとジェシチャー
具体的に簡単な言葉で伝えること	具体的でわかりやすく伝えること
相手の目を見て真摯になって物事を話す	ただ自分だけで話すのだはなく聞いている人も巻き込むような他者から見ても楽しいと思えるような授業
たとえを使う、手で表現する	具体例
その場に合わせて具体、抽象で使い分ける	相手に問いかけること
ジェスチャーなどを使う	ジェスチャーや言葉選び

語彙力、相手の反応を見ながら、ジェスチャーや具体的な例の提示	相手を退屈にさせないように、相手の興味を引くような工夫をすること。
目があっていること	伝えようとする気持ち
アイコンタクト	僕自身できていなっかったのですがＡさんの発表みたいなアイコンタクトやジェスチャーが大切だと感じた。
手、図やグラフを使いわかりやすくすることが大切	相手を内容に引き込ませるために興味を引く画像、クイズなどを使い真剣に見て聞いてくれる工夫が必要
相手に何を伝えたいのか内容を明確にする	あいてに分かってもらいたいという考えから出るジェスチャーとアイコンタクトだなと思った
相手のが理解しているのかを考えながら伝える	話相手に問いかけたりアイコンタクトをとるのが大切だと思った。
要点をまとめて、データをもとに発表する	アイコンタクトをしっかりとしてデータなどをもとに発表する
自分が伝えたいものを伝えるために努力すること	
大きな声で話相手が聞き取りやすいよう伝える事だと思う	声の大きさや画像の背景、前を向いてゆえると良いと思う
相手に目を向ける	
表や､ジェスチャーを使うこと	相手の様子を伺いながら、理解が追いついていないようならもう少し簡単な言葉を使ったりして相手を納得させられるような工夫が大切なのかなと思った。
図や表を用いて説明する	スライドなどを用いたりアイコンタクト、ジェスチャーなどが大切
行動	アイコンタクト、わかりやすい言葉の説明力
自分の意見を正直に言うことと相手のことを考えて発言すること	スライドを作る場合、色の変化でネガティブかポジティブかどうかを伝えたり、共通して、落ち着いてジェスチャーを使って話したりすることが大切だと思いました。
相手の立場からみて説明し、わかりやすく簡潔にまとめて伝える	わかりやすく説得力がある内容をジェスチャーや図などを使って説明すること
表現力と語彙力	身振り手振り、声の抑揚
図やグラフなどの資料を使う	問いかけ、大きい声、わかりやすく聞き取りやすい内容
	具体例を用いたり誰もが理解しやすい言葉を使うこと。
図や表、ジェスチャーなどを使いながら目を見て伝えること	場面によって声の大きさを変えたり、図などを用いてわかりやすくまとめて伝えること
話の構成	アイコンタクトをして、自分の言葉で伝えること。
話の順序立て	アイコンタクトやジェスチャーをする
相手が理解しやすくなるために、データや、グラフ、スライドなどを見せながら、自分の伝えたいことを完結に重要語句や､大事なことを相手に伝える(伝えるときは、抑揚をつけるなど、相手を飽きさせない工夫が大事)	計画性　具体的に物事を伝えること　気持ち
話す相手とのアイコンタクトや相手との信頼関係	
言葉だけでなく表情やジェスチャーで表現すること	
自分の意見	アイコンタクト
身振り手振りだったりを使ってはっきりとした声で伝える	言葉の言い回しや、印象づける為のジェスチャー
図や表を活用して、相手にわかりやすく視覚的に伝えること	相手の興味を引くためグラフや表を活用することで可視化してあげること
話す順番が大切だと思います。	伝えられる側の気持ちを考えて伝えることが大切だと思いました。
話す前の準備や要約	共感する内容を始めに話すこと

聞く人の立場になって考える。事前準備をしっかりする	一方的ではなく相手も参加させる
わかりやすい言葉で、シンプルに結論を伝える	言葉や文字だけでなく、色を変えたりして、相手にわかりやすく伝える
目を見て話す	周りの人を見ながら伝えたいところを強調したりする
頑張って伝えようとする気持ち	人の目をしっかり見て話す
	相手の方を向いて伝えたいことをはっきり話す。
伝えたい、という意思を持ち続けること	相手に伝わるまで「伝えよう」という意思を持ち続け、行動に示すこと。
相手の表情を見ながら伝え方を変える	相手の目線になって伝え方を工夫すること
	資料をかつようし簡潔に伝える
声色の使い分け	
	アイコンタクト
相手に寄り添う	
伝えたいことを相手に見せる	伝えたいもののキーワードを伝えてそのものを深く掘り下げて説明する
相手の気持になってわかるように伝える	相手の気持になって話す
自分の考えを伝えることを恥ずかしがらずに、いい雰囲気で！（笑顔や声のトーンなど）	自分の思うままにべらべら話すのではなく、相手の様子にも気にかけること。
順序よく説明をする。	言葉遣い
自分の意志を伝えながらも相手の気持ちも考える	分かりやすくまとめてジェスチャーなどもつける
相手に伝わりやすい表現にする事	話し方
ジェスチャーをつける	声のトーンや目線
伝えたいことを強調して伝える	本当に伝えたいものを強調して伝えること
コミュニケーション能力	どのように言えば相手に伝わりやすいか考えること
笑顔で身振り手振りする	身振り手振りをしたりあいてをみながらやる
語彙力と説明力最後に笑顔	テレビに指さしをしながら
ジェスチャー	発表の初めに聞き手の興味を引くこと
全体から詳細で具体的に言うのが大切	分かりやすい言葉や表現を使って伝える
相手に合わせた説明をすること	話すだけじゃなくて問いかけること
言葉だけで伝えようとするのでわなく、ジェスチャーを用いる。 伝えるときの周りの雰囲気が伝えやすい	聞く人のことを考えて話すこと。
雰囲気よく反応もしてあげる	聞き取りやすい声の大きさで、前を見たり、ジェスチャーを使う。
相手の気持ちになって	相手の気持ちになっることが大切
相手が分かりやすい説明の仕方	相手が分かりやすいスライドや説明
順序よく、難しい言葉ばかり使わないで自分の言葉で噛み砕きながら話すこと。	表情と話すスピードを意識することが大切。
わかりやすく端的に	
相手と会話しながら説明	先に結論を出してから詳しく説明することなど順序の工夫が大切
順序よく、わかりやすく伝える	相手に聞こえるよう大きくはっきりと喋る
言葉だけではなく、ジェスチャーも使うこと	相手の気持ちも考え誰が聞いてもわかりやすいようにする
言葉だけでなくジェスチャーなどを使って伝える	ジェスチャーなどを使って簡潔に伝えること
身振り手振りを使いながら、相手の目を見て、笑顔で話すことだと思います。	聞いている一人ひとりの目を見て表情豊かに話すこと
言葉で伝えるだけでなくジェスチャーを使うこと	大事なところをジェスチャーを使うなどして強調したりと工夫する
身振り手振りを使う	身振り手振りを使う　声色を変える
具体的にわかりやすく伝える、ジェスチャー使う	ジェスチャーを使ったり工夫して相手にわかるように伝える

相手のことを考える	分かりやすく、自然に伝える
きちんと伝えようとする気持ち	きちんと伝えようとする気持ち
ジェスチャーや抽象的な考えをわかりやすく話す	具体例や質問を投げかけること
一人で突っ走らずに相手が自分の話についてきているかどうかを確認しながら話すこと。	聞いている人に気を引くために問いかけたりして参加型の伝え方をすることが大切
	相手の表情を見ながらわかりやすく面白く伝える
自分の考えを持つ	堂々とする
相手に一番伝わりやすい言葉遣いを選ぶこと	焦らず落ち着いて丁寧に言いたいことを伝える
ジェスチャーで表現したり、相手に伝えることをあらかじめ考えておく	伝えたいことを完結にまとめること・ジェスチャーを取り入れて話す
具体と抽象をほどよく織り交ぜる	表情
ジェスチャー	ジェスチャー、表情、相手に伝わりやすいように工夫すること（声のトーンを変えるとか）
頭の回転の速さ	相手がわかる言葉を使う
声のトーンや印象を良くすること	伝えたい要点をまとめる
語彙力がいかにも必要だと思います。	語彙力と表現
笑顔で具体的に伝えることだと思います	伝えたいことと根拠が大切
言いたいことをはっきりと、しっかり伝える。	言いたいことを簡潔にまとめる、あとはシンプルに
顔、	顔と思い
手短に要点を伝えられる国語力	見ている人がつまんないなーと感じてしまわないようにするように試行錯誤すること
語彙力　ジェスチャー　笑顔	笑顔や笑いとエンタメ精神
相手が知っている言葉の中からわかりやすいものを選んで話すこと	伝えたいことを明確にしてから話すこと
場面や状況に応じて、具合的に伝えるか抽象的に伝えるかを判断して伝えること	伝えたい要点を確認し、それをスライドにわかりやすくまとめる
焦らず、目を合わせて話す	話すことを瞬時に考えること
目を見て相手の反応を確認しながら伝えるようにする	先に伝えたい要点を決めておいてから、そこに具体例とかを付け足していくようにする
	ジェスチャー
一つ一つ確認しながら伝えていく	理由を根拠を持って述べている
アイコンタクトと信頼	嫌われるのを承知とする
表情や身振り手振りで言葉以外の伝え方も使う	表情やジェスチャーを使う。
要点をわかりやすく伝える	要点をわかりやすく簡単に伝える
相手の考えを理解する	準備を必要以上にすること
物事を相手に伝えたいという姿勢	伝えるための表現や工夫
ジェスチャーを使う	わかり易い表現や、表情、ジェスチャー
反応を見つつ説明する	難しい言葉を使わない
ジェスチャーと擬音	ジェスチャーと、相手に伝わっているかを表情などを見ながら確認して話すこと
自分で完結せず相手に伝わっているかを確認する	相手を巻き込んで進める
幼い子に伝えるくらいわかりやすく、簡潔につたえること	話の論点がわかるように、内容がごちゃごちゃにならないこと
身振り手振りを添える 様々な言い回しを使っていろんな表現をする	結局伝えたいことは何なのかをはっきりすること

２　指導資料

以下は、「話すこと・聞くこと（〔思考力，判断力，表現力等〕A）」を指導事項に含む単元の年間計画である。

指導事項

ア　目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，多様な考えを想定しながら材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。

イ　自分の立場や考えを明確にし，相手を説得できるように論理の展開などを考えて，話の構成を工夫すること。

ウ　場の状況に応じて言葉を選ぶなど，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

エ　話の展開を予測しながら聞き，聞き取った内容や表現の仕方を評価して，自分の考えを広げたり深めたりすること。

オ　進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い，合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

月	単元名	指導事項				
		ア	イ	ウ	エ	オ
6	話を評価できる人になろう（「評価しながら聞く」）				○	
6	伝わる構成のスピーチをしよう（「説得力のある構成を考えよう）	○	○	○		
9	目指せ聞き上手（「聞き上手になろう」）				○	
１０	「良い話し合い」目指そう（「話し合いを効果的に進める」）				○	
１１	自分の考えを上手く伝えよう（「合意形成に向けて話し合おう」）	○		○		○
1	三年間の振り返り（「三年間の歩みを振り返ろう」）			○		
3	学習の振り返り（「学習を振り返ろう」）		○	○	○	